

「あふれる愛—小さきものとともに—」

聖句「愛する者たち、互いに愛し合ひましょう」 —ヨハネの手紙Ⅰ 4章7節—

部会だより

キリスト教 保育連盟 神奈川部会 2013年2月13日 第123号

テーマ〈子どもは明るくのびのびと!〉

横浜愛隣幼稚園 園長 佐野 治



聖句

『あなたがたは神に愛されている子どもですから、神に做う者となりなさい。…あなたがたも愛によって歩みなさい。』 (エフェソ 5章1-2節)

冒頭の聖句は、横浜愛隣幼稚園にとって大切な聖書の言葉です。幼稚園の名称に使われている「愛隣」の根拠となっている聖句となっている箇所です。「愛隣」とは、義務として隣人を愛することではありません。隣人を心から愛せる人になりなさいという前に、まず、神さまに愛されている子どもであることを知ることが大切だからです。愛されていることがいのない自分であることを理解し、互いに愛し合う喜びに生きる人として成長してほしいという祈りの御言葉であります。そして「神に做う者になりなさい」とは、イエス・

キリストが隣人を愛されたように私たちも隣人を愛する人として生きるということが示されている聖書の御言葉です。 毎朝、幼稚園の入り口で立っていると、子どもたちが元気にあいさつをしてくれます。「おはようございます!」恥ずかしがって、にっこり笑って、幼稚園に入っていく子どももいます。元氣いっぱいの挨拶を子どもたちと交わすと、なんだか私までもが、元氣いっぱいな気持ちになります。横浜愛隣幼稚園は、今年で創立81周年を迎えました。創立者・初代園長であったウイニフレッド・ドレーパー宣教師や教師たちが教育の目標としたことは、一人一人の人格を尊重し、幼児が大人に付随した存在ではなく、幼児がその子として尊重され、枠にはめ込んでいく教育ではなく、人格の基礎を築くことでした。そして、個性が尊重されることで社交性が尊ばれました。そしてもう一つ大切にしている言葉があります。それは、「子どもは明るくのびのびと」という言葉です。明るくのびのびと、創造力や感性豊かな子ども、そして、たくましさと同時に、優しい心をもった子どもに成長して欲しいという願いをこめた言葉

です。「子どもは明るくのびのびと」というこれらの思いは、創立以来ずっと引き継がれてきました。 さて、横浜愛隣幼稚園では、「ブックマミー」という取り組みを何年も前から行っています。子どもたちが自分の好きな本を三冊ずつ借りて、おうちに持って帰ります。大好きな本を思う存分読んでもらったり、自分で心行くまで読むことができるのです。この日にはもう一つ、子どもたちの楽しみがあります。それは、保護者の方から絵本の読み聞かせをしてもらえる日です。お友達のお母さんが読んで下さる絵本を、子どもたちは、とても喜び楽しみながら、真剣に聞いています。 近年、子どもたちが「本を読まなくなつた」と言われています。子どもたちの絵本との最初の出会いは、家庭での絵本の読み聞かせではないでしょうか。子どもが絵本と出会う環境設定においては、その子を取り巻く大人の読書意識が大きな影響を与えています。この幼児期というのは、心身共に大きく成長する時期です。目で見て、耳で聞いて、臭いをかいて、舌で味わい、肌で感じる等の五感を通して、新しい事を発見して、それらのことすべてを吸収する

時期です。絵本の世界は、子どもたちに夢と希望を与えてくれます。ぜひ、出会いを大切に、読み聞かせをしてほしいと願っています。

今年度も、神さまによって育てられ、神さまの愛をいっぱい受けた子どもたちが、卒園する季節が近づいてまいりました。子どもたち一人一人が、神さまから愛されていることを忘れることなく、明るくのびのびと成長してほしいと思います。

《テーマ》 卒園に向けて 私達の想い

いかに幸いなことが

トレーパー記念幼稚園

園長 佐 竹 和 平

子どもと過ごす日々の生活は楽しくもありますが、不安も多いのが現実ではないでしょうか。お友だちと仲良くするのが苦手な子どもがいます。肉体的、精神的な障害と生きている子どもがいます。家族が不安定な中に生きている子どもがいます。

果たしてこの子は地域社会の中でどのように生きていけるのであろうかと将来を不安視されるお子さんがいます。

私たちの幼稚園の卒業式では旧約聖書の詩編一編一節から三節を子どもたちが詠み上げます。『いかに幸いなことか』で始まるこの詩は主を信じて生きる者の幸いを教えてくれる詩です。

二節では『主の教えを愛し、その教えを昼も夜も口ずさむ人。』と詠われます。神様、イエス様の教えに従い、祈りをささげ、さんびかを歌う子どもたちのことのようにです。

詩は三節で『その人は流れのほとりに植えられた木。とぎが巡り来れば実を結び、葉もしおれることがない。その人のすることはすべて、繁栄をもたらず。』と力強く主の栄光が讚美されます。水分を吸収できるところに植えられた小さな苗木と同じように、子どもたちは幸せになるための栄養をたくさん吸収できます。だから、今、もし実を結んでいないとしても、将来、実を結ばないのではと不安に思ったとしても、やがて、その時が来れば必ず実を結びますというのです。その人のすることは多くの人を幸せにしてくれるでしょうと詠

うのです。何と幸いなことでしょう。どんなに困難でも、どんなに辛くても大丈夫です。時が巡り来れば必ず実を結ぶのです。子どものみならず貴方の行いも必ず実を結ぶのです。神様に感謝する祈り、さんびかを歌う礼拝を子どもたちと大事に守りつつ過ごしていきましょう。

卒園に向けて私達の想い

高座みどり幼稚園

西 村 み の り

卒園式を迎える季節になりました。神さまと家族と保育者の愛情で温められた子どもたちは元気良く通い慣れた園を巣立っていくのです。その時が近付くにつれて、私たちの心の中に少しずつ湧き上がってくる様々な想い。新しい環境に馴染めるだろうか…。自分の思いを先生や友達に伝えられるだろうか…。いろいろな気持ちがあります。しかしその反面、残り少ない園生活を大切な仲間たちといつも同じように楽しく過ごしている子どもたちを見て、ほっとさせられ、心が温まります。

どうかひとりひとりの子どもがその子らしさを受け止めてもらえ、喜びに溢れた日々を過ごせますように…

と、毎日祈っています。卒園式数日前には「思い出会」を持ちます。子ども達はホールにお家の方々と集まり、園生活最後の手作りのお弁当をいただきながら、お友だちや家族と一緒につもる思い出をかち合います。お気に入りの賛美歌や歌をクラス毎にうたったり、お家の方からの歌のプレゼントを聴いたり、職員からの劇のプレゼントを見ることがあります。

卒園製作として、卒園生は手のひらに乗る位の大きさの四角い木のプレートにひとりひとり絵を描いたものを記念のプレゼントとして園に残していただくことができます。

私達の園にはそのプレートが廊下に見る度に、ひとりひとりの顔が目につかびます。卒園しても神様は、ずっと私たちが一人残らず忘れずに、嬉しい時も辛い時も、いつも一緒に歩んで下さるお方であることを覚えていて欲しいと思います。そして光を与えられた子どもたちが、世の光となって、たくさんの人たちを照らし続けていける者として成長し続けていくことを願っています。

強く、雄々しくあれ。

ヨシユア1：6

田園江田幼稚園の卒園式

田園江田幼稚園

主任 半澤 納 帆

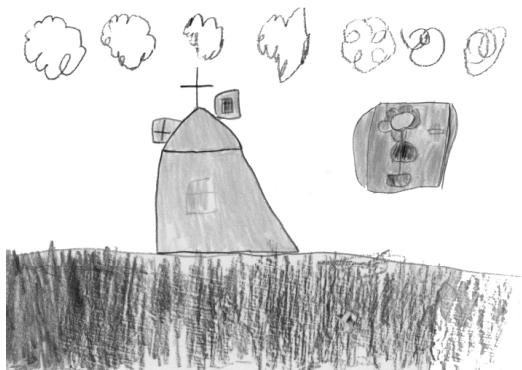
教会付属の我が園の卒園式は礼拝堂で厳かに行われます。卒園式では、今までの幼稚園生活が常に神様のお守りの中にあつたこと、そして素敵な成長を神様が与えて下さったことを、卒園児にかかわつたすべての方々と共に感謝し喜びます。

保護者、特にお母様方には特別な席に座っていただきます。我が園は園バスも給食もなく、行事の時は保護者の協力が必要な、いわゆる手のかかる園です。でも、園からは「親子で幼稚園生活を楽しんで共に成長しましょう」と常に呼びかけ、手のかかる事を楽しんでいるお母様方、この日の気持ちは卒園児と同じで、とても緊張して席についていらつしゃいます。

保育証書授与の時は、保護者にも決まった場所に立っていただきます。そして卒園児は保育証書と園からの感謝の花束を持ち「お母さんありがとう」と渡しに行きます。この時は笑顔と感動に満ちた本当に素敵な時です。送り迎えをありがとう。

おいしいお弁当をありがとう。楽しかったね。いろいろな思いが詰まつた「ありがとう」は保護者の方々の保育証書なのかもしれません。

でも、私たちは卒園式をお別れの時として考えていません。なぜなら教会には卒園がないからです。卒園児も保護者も、うれしい時、困った時、いつでも教会に帰ってきて欲しい事、小学生になつても日曜日は教会に来て欲しい事も伝えます。私たちが蒔いた小さな信仰の種はすでに芽を出していますが、いつか大きな実りになる事を信じて…。



卒園にむけたい私たちの想い

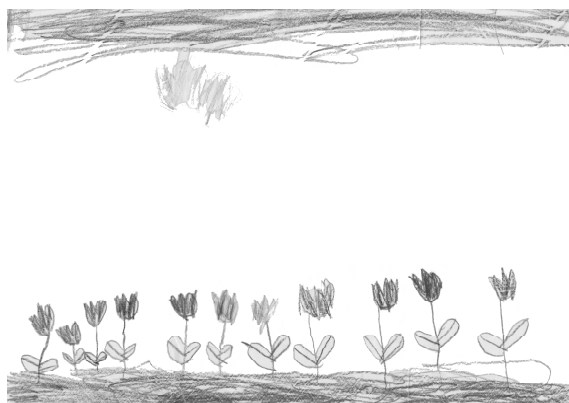
戸塚ルーテル教会附属幼稚園

石 黒 晶 子

年長として、イースターのお祝いから始まる一年。目を輝かせながらも、どこか年中の面影がちらほら顔を覗かせる子ども達が、園庭や園内外での遊びを十分に楽しみ、迎えるお泊り会。夏の自然を存分に満喫し、夏休み明けには心も体も、ぐんと伸びて熱く燃える運動会。すつかり年長として心身共に逞しくなり、クラスや一人ひとりの成長を神さまに感謝する感謝祭。そして、私たちが街に待っていた、クリスマスを迎えます。この時期は世間でも師走と言うほど慌しく、そんな中、イエスさまは私たちの中に来て下さり、愛して下さっている事を確認し合つて教会暦の一年を締めくくります。迎える三学期はあつと言う間で、時の経つ速さと淋しさを覚えながらも、卒園に向けて準備を進めていきます。一年、二年、三年と、これまでの園生活を振り返りながら就学への心備えをしていく中で私たちは何を想い、祈るのでしょうか。園での楽しい生活が子ども一人ひとりの心の

基礎に暖かいものとして、また、力強い糧としてあるようにと願い祈ります。

各園で卒園式や祝会の形態や持ち方など、いろいろ工夫されている事と思いますが、いろいろな違いはあつても、教会の幼稚園、保育園として♪神共にいましてゆく道を守り、あめの御糧もて力を与えませ♪どんな事があつても神さまと一緒に歩み、守つて下さるから大丈夫、安心していこう。と送り出し、これからもすつと変わらぬ祈り、覚えていきたいと切に思います。



講演会に参加して

名画からみごとばを知る喜び

聖鳩幼稚園

園長 林 光

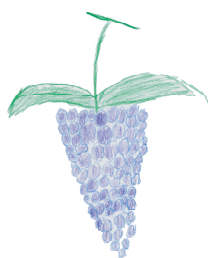
小春日和の午後、町田俊之先生の美術講演会ということで、楽しみに参加させていただきました。

聖書にあるみ言葉「空の鳥を見なさい」にあるとおり、イエスさまは、神の国の奥義を民が知るためには、聴くことだけでなく見る事が助けになることを知っておられました。そして真理をわかりやすく語る時、身近な見えるものを示しています。それはぶどうであったり、純真な子どもであったり、冒頭の鳥であったり、誰にでもより伝わったでしょう。

そして、500年前の、一枚の聖画の中に込められた意図もまた、神の万能さや、神聖さ、人間の愚かさ、愛おしさを、目に見えるかたちに描きながら、見るものが共感し、それらの真理を理解するところにあつたようです。その絵の中には、父を慕

う子のような表情をしたアダムが描かれ、天使から受胎を告知され、困惑の表情をする幼いマリアなど、現代の私たちが見る上でも、ことばで伝えられている以上の想いを重ねてメッセージを受け取れる気がします。

この研修会を通して、町田先生の豊富な知識、牧師先生としての聖書理解からくる解き明かし等により、聖画をより深く鑑賞でき感謝します。



〈役員会報告〉

書記 奈良 昌人

役員会は七月二日(月)、九月六日(木)、十一月五日(木)に開催されました。主なことを報告いたします。

◆第八十三回連盟夏期講習会を終えて：七月二十六日(木)～二十八日(土) パシフィック横浜とヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルにて開催され、神奈川県会より二五人が参加し、全国より総勢九〇〇人が集い開催されました。部会ア

ワーでは島田勝彦部会長と森田裕明副部会長によるペリー提督の寸劇に会衆は驚き楽しみ、その後の国友淑弘氏に指導による部会選抜ゴスペル・グループによるコーラスは、会場全体が神への賛美に包まれる素晴らしい恵みの時間でした。連盟はじめ多くの方々から素晴らしかった、楽しかったとの言葉をいただきました。感謝！

◆第二回講演会は十一月七日(水)みくに幼稚園(藤沢)においてバイブル&ミニストリー主宰町田俊之先生をお招きし、「名画に秘められた聖書の世界」のテーマでお話しを伺いました。ミケランジェロやフラ・アンジェリコ、レオナルド・ダ・ヴィンチら巨匠の描いた聖画に込められた聖書のメッセージを堪能する恵まれた講演会でした。

◆クリスマス礼拝は一二月五日(水)清水ヶ丘教会にて日本キリスト教団清水ヶ丘教会副牧師柏明史先生よりクリスマスメッセージをいただきました。恵みのうちにクリスマススの喜びを分かち合いました。また、勤続十周年以上の七人の先生方への永年勤続表彰が行われました。各園からの献金は横浜訓盲学院、国境なき医師団、連盟の被災地支援にお届けしました。

編集後記

願書受付が終わってから、やっと各園への原稿依頼、クリスマス準備まっ最中の中での校正と目まぐるしく動いた(いつもですが…笑)123号でした。大変短い期間の中での無理なお願いにもかかわらず、原稿をお引き受け下さった先生方に改めて感謝を致します。2013年も皆様に神様の祝福がありますようにお祈り申し上げます。

◆園長・設置者・主任研修会
二〇一三年一月十三日(日)～十四日(月)に茅ヶ崎館(国指定登録有形文化財)にて、学校法人平和学園・元学園長夏村充先生より「保護者とのかわり方」についてお話しを伺い、良き学びと交わりの一泊を過ぎました。

発行日 二〇一三年二月十三日

印刷所 樋口タイプ印刷

編集者 神奈川県会 広報担当

片瀬のぞみ幼稚園 草ヶ谷 弘子

のぞみ幼稚園 藤田 希恵子

イラスト提供 私塾まきば